

ジュニア・スタディーツアーに参加する生徒ら＝3日、県庁



移民子弟23人 沖縄学ぶ



第5回 世界のウチナーンチュ大会

「**読んでる 読んべ NIE**」
 沖繩からの移民の子弟が沖繩の歴史や文化を学ぶジュニア・スタディーツアーの参加者を歓迎する式典が3日午前、県庁で開かれた。10カ国の16県人会から参加した23人は2日に来県。県内17人の中学生と6泊7日の日程で行動を共にし、交流する。式典で上原良幸副知事は

「新しい宝物持ち帰る」

ジュニア・スタディーツアー歓迎式典

「海外雄飛という素晴らしい覇気を持ち沖繩から出て、現地で頑張った先祖を誇りにしてほしい」と参加者を激励した。

あいさつした参加者の宮城カロリーナ真由美さん(16)は「ブラジル県系4世」は「新しい宝物を持ち帰り、世界中で暮らす若い世代のウチナーンチュに伝え、広げると力強く語った。

浦添高校3年の入米藏康平君(17)は県内参加者を代表し「故郷の文化を愛することのできる国際人になりたい」と話した。

ジュニア・スタディーツアーは10月に開催される第5回世界のウチナーンチュ大会の関連事業。エイサー講習や首里城、平和祈念資料館の見学を通じて沖繩の歴史、文化、自然を学ぶ。